

相談員の声

いのちの電話相談員全国大会の岡山で

初日の研修を終える。齢七十となり聴いたこと新しいことがなかなか覚えられなくなった。それでも受講し終えた満足感・解放感で気分を軽くし、宿へと向かう。

ホテルは会場や駅から離れているため路面電車に乗ることにした。路面電車の走る街はどこか郷愁を感じさせほっとさせる。独特の音を唸らせゆっくりだが懸命に走る電車は、時々止まり一人二人乗り降りさせた。

程なくして降りる電停が近づき料金の準備をする。あいにく細かい硬貨がない。どうしたらいいのか迷っているうちに電車は止まった。降り口へ移動し運転手に聞くと、ここで両替をして運賃箱に入れるよう教えてくれる。ところが焦ったのか前もってちょうどの料金にせず、一個ずつ数えながら入れ始めてしまったのだ。いかん、こんなことをしては時間がかかる、後の人に迷惑がかかると思ったが途中でやめられない。降りようと思った後に並んだ人は、何をしているのだあの爺さんは、早くしろとあっけにとられていた。モタモタする年寄りを、つい最近までしょうがないなあと苦々しく思っていたのは自分なのに。

4人で備中松山城へと足を延ばす。山の上にある天中の城として紹介されているが訪れるのは初めてだ。中腹の駐車場でシャトルバスに乗り換え随分上まで上がったのだが、降りたあとさらに登山道のような山道を登らなければならなかった。これが半端ではなくい

つまでたってもたどり着かない。息切れがする。急ぐことはないのだが歳だから遅くて当然と思われるのも癪だ。途中で休めばいいのに意固地になって無理をしてでも進む。今度こそはと思っても、下からは見えなかった坂道が執拗に続く。もう変な見栄はやめようかと思ったが、ここまで来て途中でやめられない。あとでガクガクになった膝で痛い目に遭うかもしれないのに、「さすが若い」と言われたいのが爺さんなのだろう。

こうしてようやく目にした城は、小ぶりではあったがきっちりとしたいいアングルで姿を見せてくれた。登るだけでも厳しく疲れ果ててしまう山頂に、城を築いた当時の人々の苦勞を偲ばずにはいられない。

どこを訪れたときでも帰りのプラットフォームは別れの寂しさをいつも感じる。暮れゆく岡山の街、灯りのついたビルや車をぼんやりとながめていた。新幹線の発着のメロディが鳴っている。

土産はカミさんよりまず孫に、と近くに住むアパートへと走る。

「爺ちゃんとオカヤマに行きたい」
やっぱり爺ちゃんがいい！

H・K

(2019.12に書かれたものです。)



会費・寄附に対する感謝報告

下記の方々から岐阜いのちの電話協会へ暖かいご支援をいただきました。心から感謝して報告いたします。今後ともご支援賜りますようお願いいたします。

【個人】2020年5月1日～2020年10月31日領収分

50音順・敬称略

浅倉恵一 (岐阜市)	浅野香子 (各務原市)	伊沢美志津 (大垣市)	石樽弥生 (岐阜市)
板垣正雄 (岐阜市)	伊藤英子 (藤沢市)	井上玲子 (岐阜市)	岩見三七夫 (美濃市)
太田朋子 (三島市)	大西フミ子 (岐阜市)	大宮裕子 (岐阜市)	小木曾誠 (各務原市)
小里れい子 (大垣市)	片桐妙子 (関市)	川本侑子 (多治見市)	北谷雅春 (岐阜市)
児玉佐喜子 (養老町)	後藤道子 (岐阜市)	子安崇雄 (岐阜市)	近藤孝夫 (岐阜市)
清水広子 (岐阜市)	白木裕子 (岐阜市)	杉田その子 (岐阜市)	杉田憲夫 (岐阜市)
高木知子 (大垣市)	高木美智子 (大垣市)	高橋明美 (岐阜市)	高橋清子 (岐阜市)
高山節子 (岐阜市)	田口清吾 (日進市)	田口弥生子 (岐阜市)	多田 滉 (岐阜市)
多田嘉子 (岐阜市)	辻 幾則 (岐阜市)	辻 照代 (岐阜市)	辻尾俊明 (各務原市)
土野一憲 (岐阜市)	常富佳子 (岐阜市)	東海恵子 (岐阜市)	中村紀子 (可児市)
長屋光行 (本巣市)	西田一代 (大垣市)	西谷玲子 (愛媛県)	廣江武典 (岐阜市)
福井真一 (岐阜市)	古川秀昭・昭子 (岐阜市)	政井千賀子 (岐阜市)	蒔田正子 (関市)
松岡典子 (桑名市)	三尾美紀 (大垣市)	三品照視 (美濃加茂市)	宮田延子 (美濃加茂市)
村瀬 香 (名古屋市)	村瀬忠敬 (山県市)	村瀬康子 (山県市)	森川士朗 (岐阜市)
矢野由子 (大垣市)	安江悦子 (揖斐川町)	山田小夜子 (揖斐川町)	山田宣子 (岐阜市)
山田吉則 (美濃市)	吉田朱美 (岐阜市)	若岡ます美 (岐阜市)	若林まり子 (池田町)

この他お名前掲載を希望されない方 7名